

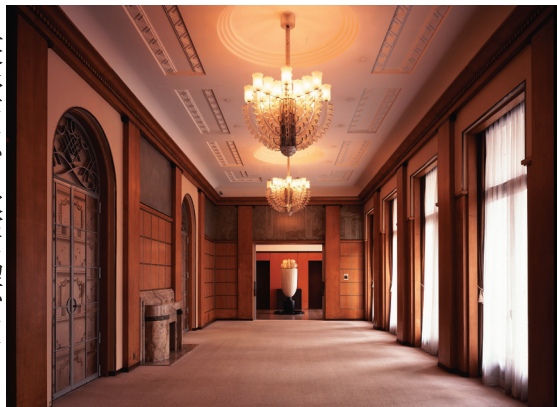
旧朝香宮邸の アール・デコ

写真提供：東京都庭園美術館

エッチング・ガラス(大客間の扉)



正面玄関 (ルネ・ラリックのガラス・レリーフ扉)



大客室



大食堂

アール・デコ(フランス語: Art Deco)、
décorative (装飾的な) art (芸術)は、フ
ランスを中心にヨーロッパを席卷した工
芸・建築・絵画・ファッションなど全て
の分野に波及した装飾様式の総称。

19世紀末にヨーロッパで花開いた新
しい美術、アール・ヌーヴォー(仏:Art
Nouveau)「新しい芸術」の時代につづい
て展開されたデザインで、アール・デコ
のデザインが華開いたのは、1925年、パ
リで開催された万国装飾美術博覧会だっ
た。正式名称は「現代装飾美術・産業美
術国際博覧会(Exposition Internationale
des Arts Décoratifs et Industriels
modernes)」略称を「アール・デコ博」
といい、これに因んで「アール・デコ様式」
と呼ばれるようになった。また「一九二五
年様式」(Le Style 1925)ともいわれてい
る。

世紀末のアール・ヌーヴォーは植物な
どを思わせる曲線を多用したデザインで
あったが、20世紀には自動車・飛行機や
各種の工業製品、近代的都市生活が生ま
れ、時代の移り変わりによって、機能的・
合理的で簡潔なデザインが流行するよう
になった。

社会の生活が、合理性と機能主義一辺
倒となった今日、近代生活のはしりとも
いえる1920、30年代の様式、機能的であ
りながら装飾美をも兼ね備えたアール・
デコ様式が新鮮に受け止められるように
なっている。

建物と内部の装飾にアール・デコ様式
を現在に伝える「東京都庭園美術館」は、
旧朝香宮邸をその起源としている。

朝香宮鳩彦王は、陸軍大学校勤務中の
大正11年(1922)、軍事研究のためフラン
スに留学されたが、大正12年4月パリ郊
外で交通事故に遭われ、看病の為渡欧さ

れた妃殿下とともに大正14年まで長期の
滞在を余儀なくされた。ご夫妻は、1925
年、パリで開催されていた「アール・デ
コ博覧会」を見学されて感銘を受け、帰国
後の昭和4年(1929)、白金台の敷地に新
邸建設に当って、アール・デコの粹を集
めた邸宅を計画し、昭和8年5月に竣工
させた。

フランス人デザイナーが主要部分を設
計し、内部装飾も、外国から輸入されたも
のが多く使用されているが、基本設計と
内装の一部は宮内省内匠寮(たくみりょう)の建築家が担
当したので、アール・デコ様式に日本独
特の感性が付け加えられ、また緑豊かな
庭園に囲まれ、見事な自然と建物と美術
作品との調和が創られた。

朝香宮邸は、戦後の一時期、外務大
臣・首相公邸、国の迎賓館などとして使
われたが、建設から半世紀後、昭和58年
(1983)10月、「東京都庭園美術館」とし
て生まれかわった。